







事例③ サラヤ株式会社

「きれいごと」を実践する サラヤの SDGs

~社会問題を解決する持続可能なビジネス~

サラヤは「世界の衛生・環境・健康の向上に貢献する」をミッションに、1952年の創業より人と環境にやさしい天 然素材を使った製品やサービスを提供しています。エビデンス(根拠・裏付け)に基づいた製品と情報提供を通じて、 感染症対策をはじめ、皆さんの健康で豊かな生活を支えています。

サラヤ創業者の更家章太(さらやしょうた)は、世界遺産の熊野古道がある三重県熊野に生まれ幼少より自然の中で 育ったため、「天然素材を使う」「環境にやさしい製品づくり」は、更家にとって特別なことはなくごく自然な発想でし た。熊野川の清流で育った自然観がサラヤの DNA になっている、と言えるでしょう。

本稿のタイトルに示していますように「SDGs を実践する」というと見かけや口先だけの「きれいごと」に思われる かもしれませんが、サラヤは洗剤や消毒などの衛生(=きれいごと)を通じて社会貢献を行い、熊野川の清流のように、 「無理なく無駄なく汚れのない」製品やサービスを提供する企業を目指しています。

サラヤは、国の第1回ジャパン SDGs アワード、SDGs 副本部長(外務大臣)賞を受賞しています。

【水に関する社会問 題について理解す る】

日本は国土に水 が豊富で水道設備 も整っており、飲 むのはもちろんの こと、清潔な水で 手を洗ったりうが いをしたりするの もごく普通のこと だが、海外では国 や地域によっては それは当たり前の ことではない。

SDGs でも清潔な 水の確保は社会課 題として取り上げ られているが、世 界にはどのような 課題があるのだろ うか。知っている ことを確認したり 調べてみたりして、 他の生徒と話し 合ってみよう。

1. サラヤの創業~手洗い石鹸液で感染対策~

更家が大阪で起業した当初は、三重県熊野に古くから伝わる健康薬を販売していました。しか しうまくいかず方々へ営業活動を行ううち、紡績工場から「それよりも、簡単に手洗いができて 消毒できるような、便利な石けんがあれば購入したい」と相談がありました。サラヤ創業時の 1952 年は戦後間もない頃で、不衛生な状況が続き赤痢などの感染症が蔓延しており、集団感染 の対策はその工場にとっても非常に重要な課題だったのです。

創業者は学生のときに応用化学を学んでいたため、石けんを作る ことは難しくありませんでした。そこに殺菌消毒用の薬剤を加え、 液体の状態で安定するように工夫をし、専用容器に入れて使うこと を考えました。手を洗うだけで殺菌・消毒できる薬用石鹸液の開発 です。それが、今でも学校などで使われている「シャボネット石鹸液」 という緑色の石鹸液と専用容器です。

それまでの公共施設にある固形石鹸は汚れたりすぐに盗まれるこ とがありましたが、壁に取り付けた容器に液体を入れることで盗ま





サラヤは、 絶滅危惧種に指 定されている象などが生息 する、ボルネオ島の生物多 様性の保全について、環境 に配慮した原料調達や商品 による普及啓発を通じて貢 献しています。

れることはなくなり、さらに、使用のたびに一人分の石鹸液が出てくるため、たくさんの人が衛 生的に使用できる画期的な商品でした。このような手を洗うだけで殺菌・消毒のできる石鹸液は、 手軽に感染症を予防することができたという意味で、戦後日本の衛生環境改善に貢献したとも言 えるでしょう。

2. 「ヤシノミ洗剤」誕生と全国への普及

①「ヤシノミ洗剤」の誕生

高度成長期の後期である1970年代は、洗剤といえば安価で大量生産できる石油を原料とした もの(石油系食器用洗剤)が主流でした。しかし、それらの洗剤の排水は非常に分解されにくく、 川が泡だらけになってしまうこともあるなど全国の河川や湖沼で汚染を引き起こし、大きな社会 問題となっていました。

そこでサラヤでは、シャボネット石鹸液で使用していたアブラヤシからとれる「ヤシ油」に着 目し、環境への負担が少ない食器用洗剤を開発しました。これは石油から作られた原料を一切使 用せず植物性の洗浄成分のみで作られている(植物系食器用洗剤)ので、排水後は微生物によっ て水と二酸化炭素にすばやく分解されて地球に還り、汚染の原因物質を残しません。加えて、洗 海に必要のない香料や色素などを一切添加せず、できる限り環境への配慮を行いました。

	長所	短所
石油系洗剤		
植物系洗剤		

かけ基本

【それぞれの長所短 所を客観的にみる】

石油系食器用洗 剤と植物系食器用 洗剤は、単純にど ちらが「良い悪い」 と言えるものでは なく、それぞれに 長所と短所がある。 本文で書かれて いる情報と、本や インターネットで 調べた情報をもと に、客観的に見て、 簡単な表にしてみ

よう。

この商品は業務用製品として官公庁や学校給食の現場、事業所などを中心に全国で幅広く採用されましたが、その中でも食器を洗う機会の多い給食センターの職員から、「この洗剤を使うと手が荒れない」、「家でも使いたいから家庭用として売ってほしい」という声をいただくようになりました。このできごとがきっかけで、サラヤの看板商品である「ヤシノミ洗剤」が誕生しました。



アブラヤシの果実

ヤシ油は環境にやさしい以外にも、石油から作られたのものと比べて人の肌にもやさしい油だったのです。また洗剤の洗浄成分の濃度が高いと手の油も洗い流してしまい、手荒れが起きてしまいますが、ヤシノミ洗剤は、今も昔も洗浄力と手肌へのやさしさを考えた絶妙なバランスをとっています。

②全国展開までの試行錯誤

商品の良さには自信があったヤシノミ洗剤ですが、当初はなかなか商品の使用が広がりませんでした。ヤシノミ洗剤は、洗浄力は落とさず、手肌と環境に負荷となる化学的に合成された香料や着色料などを使わないため、高度に精製された高品質で高価な原料を使用する必要があり、商品の価格が高くなってしまったのです。当時の大手メーカーの洗剤と比較して、ヤシノミ洗剤は1ボトルあたり50円も高くなってしまっていました。

当時の日本には環境に対する意識は高くなく、「環境に配慮した洗剤」は思うように売れませんでした。その理由のひとつに、商品を問屋を通して小売店に納品する必要があり、通常の洗剤よりも高い無名の洗剤を新たに取り扱ってくれる問屋を探すことに、まず大きな苦労をしたということがあります。

この状況が変わったきっかけは、新潟県での創業者と社員の営業活動でした。1日中間屋の方々と商談をしても取引が決まらず諦めかけていた時、創業者は街中である大手メーカーの車を見ました。そしてそれを追って一軒の小売店にたどりつき、頼み込んでその小売店の役員の方にお会いすることになりました。そしてその役員の方にヤシノミ洗剤の良さを夢中で伝えたところ、その思いが伝わり、ある有名な間屋に紹介してもらえることになりました。たまたまその問屋さんでは高級な化粧品なども取り扱っていたことから、他社製品と比べて高額であるということが逆に功を奏し、運よく商談が成功して取引が始まりました。これがこの後、新潟県内の多くの小売店でヤシノミ洗剤が並ぶことになるきっかけでした。粘り強さと熱意で手にしたチャンスでした。

サラヤではさらにこのチャンスを最大限に生かすため、新潟県のテレビ局で CM を流し、県内全域での一斉販売をスタートさせました。 CM は一般のお客様に広く伝わるきっかけとなり、売り上げも大きく増加しました。そしてこの新潟県での成功から全国展開へと広がっていきました。 1980 年から 81 年のことでした。

③当時は珍しかった、日本初の詰め替えパックとエコの目線でつくられた本体ボトル



1982 年 最初の詰め替えパック

さらに 1982 年には、プラスチックゴミの少量化と石油資源の浪費と使い捨ての脱却を目指して、台所用洗剤では日本ではじめて詰め替えパック(左の写真)を発売しました。

しかし詰め替えパックを使ってもらうということは、一度購入して 使ってもらっている容器ボトルを使い続けてもらうということでもあ ります。そのため、後にボトルのデザインも変更しました。発売当初 のヤシノミ洗剤のボトルは、一般的な洗剤と同様、商品名が大きく表 記されたデザインでしたが(下の左端の写真:1978年ヤシノミ初代 ボトル)、詰め替えて使われるボトルのデザインには商業色よりもイ ンテリア性がより大事だと考え、商品名を小さくしたステンドグラス

柄のデザインに変更しました。デザイナーさんに「オシャレで使い続けたくなるボトル」のデザインを依頼してできたのが、新しい容器ボトルです(下の真ん中の写真:1993年ステンドグラス初代)。美術品やインテリアが好きだった創業者のアイデアでした。その精神を引き継ぎ、今でもヤシノミ洗剤では容器などにデザインを重視しています。



1978年 ヤシノミ初代ボトル



1993年 初代のステンドグラス柄ボトル 長く使えるおしゃれなデザインに変更



2016 年 現在のボトル さらにデザイン性を高めた現在のボトル

3. ヤシノミ洗剤で知った海の向こうの環境問題

その後、1980年代になり価格の不安定なヤシ油は高騰し、原料のひとつにアブラヤシ由来の「パーム核油」が使われるようになりました。アブラヤシの果肉から作られるパーム油のほかに、今まで廃棄されていた種からパーム核油も作られるようになり、それらを使用することは環境に配慮した選択でもありました。

しかしそれから 30 年以上たった 2004 年に、サラヤにとって思いもよらない出来事が起こります。ある環境問題を取り上げたテレビ番組から、『ヤシノミ洗剤のせいでボルネオの熱帯雨林が 伐採されているのではないか?』という問い合わせがありました。ヤシノミ洗剤の原料のひとつであるパーム油をとるために、その原料であるアブラヤシのプランテーション(大規模農園)が

問い 発展

【課題解決の他の要素も考える】

問い

かけ基本

【「諦めなかった経

サラヤの創業者

験」を振り返る】

のこのような粘り 強い行動が、結果

として成果に繋がったわけだが、

皆さんにも「粘り

強く簡単に諦めなかった」ことで、

「難しかったけれ

どできた」という 経験があるのでは

ないだろうか。そ

の経験を振り返っ て、他の生徒と話

し合ってみよう。

ボルネオ (※1) で拡大して熱帯雨林が伐採 され、そこに住む野生動物たちが絶滅の危機 にあるというお話でした。

私たちは、ヤシノミ洗剤は環境にやさしい 洗剤だと自信をもっていたため、このことは 青天の霹靂でした。

詳しく調べていくと、植物油である「パー ム油 | は主に食品用として世界中で使われて いることがわかりました。子どもたちが大好 きなポテトチップスなどのスナック菓子や チョコレート、インスタント麺、レトルト食 品など、パッケージの裏面に「植物油脂」と 示されているものは、ほとんどこのアブラヤ シからとれるパーム油だったのです。パーム 油の約8割は食用として使われ、それ以外が、 工業用油や、石けん、洗剤、キャンドル、化 粧品などに使用されていました。

石鹸・洗剤メーカーの中でも規模の小さい サラヤが使用する量は、全体から見ればごく わずかでしたが、パーム油を使用する企業と してテレビの取材にこたえると、あたかも 環境を破壊する側の代表のように見えてしま い、大きく企業イメージを損なう危険がある ことから、テレビ局から同様の依頼を受けた 他の企業はすべて断っていました。社内では 「テレビにでるべきではない」という意見も ある一方、「パーム油を使っている企業であ りながらコメントを拒否することは企業への 不信感につながり、プラスのイメージにはな らない。むしろ出演して企業のトップが責任 ある態度を示した方がよい」という意見もあ りました。社長は後者の意見に賛同し、社長 自ら取材を受けることになりました。会社と してこの取材を受けることは、企業の社会的 責任でもあると考えました。

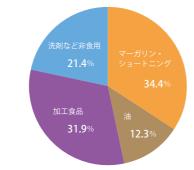


熱帯雨林に広がるプランテーション(大規模農園)





〈図 1〉パーム油使用量のグラフ



出典:農林水産省『我が国の油脂事情』 https://rnavi.ndl.go.jp/mokuji html/00000065092-2015.html

起こりそうな良いこと 起こりそうな良くないこと あなたの結論 ・会社の責任ある態度を示せる ・悪者の代表のように見えて 取材を しまう 受ける ・コメント拒否が消費者の会社 取材を に対する不信感を生む 受けない Vo

取材を引き受け、環境問題に関わっていることを知らなかったことを正直に話した結果、一時 的な批判はありましたが、現地に赴き情報を集め、現地で起こる環境問題に真正面から取り組む ことで、人々の理解が得られ、サラヤは現在では環境保全を推進する企業として高く評価される ようになりました。

現地の環境保全のため、産業と環境を両立させるべく最初に取り組んだのは、「環境と人権に 配慮したパーム油」を原料に使うことでした。2005年にサラヤは、パーム油に関わるさまざま なステークホルダー (利害関係者) が適切なルールを作るために話し合う国際会議「持続可能 なパーム油のための円卓会議: Roundtable on Sustainable Palm Oil (RSPO)」に、日本に籍 を置く企業としてはじめて加盟しました。さらに2010年には日本初となる「RSPO 認証パーム油」 を原料として使用した商品を発売しました。環境に配慮して作られたパーム油の認証制度をい ち早く取り入れ、また、ヤシノミ洗剤など商品のパッケージの裏には RSPO 認証商品を表すマー クを入れ、認証制度の普及活動にも努めています。





RSPO-1106041





RSPO 認証商品を表すマーク





日本ではじめての RSPO 認証油商品 (現在は「ハッピーエレファント洗たくパウダー」としてリニューアル)

〈図1〉

かけ基本

立って考える】 この時あなたが

【当事者の立場に

サラヤの社長だっ

たらどう考えただ ろうか?取材を受

けた方が良い理由、 受けない方が良い

理由、本文中に書

いてあること以外 にも考えて、あな

たなりの結論を出

してみよう。他の

生徒とも話し合っ

※右ページ上部の

表を使って考えを

まとめてみよう。

てみよう。



問い かけ基本

【負の影響の認識と 経営の転換の例】

自社が意図せず 社会に与えた「負 の影響」を自覚し、 経営を転換して社 会課題を解決する ようになった企業 の例は他にもある。 そのような例をイ ンターネットなど で調べてみよう。

問い

【課題解決の取り組

みの意味を考える】 野生生物の保護 にとってこのよう な土地の確保が、 なぜ必要なのだろ うか? ①自分なりに想像 してみよう ②他の生徒と話し 合ってみよう ③下で示すいくつ かのウェブサイト などで様々な説明 がなされているの で、調べてみよう。 (サラヤ:緑の回廊 プロジェクト) https://www.sarava com/conservation/ activity/01.html (ボルネオ保全トラ スト・ジャパン:緑の

(林野庁:緑の回廊) https://www.rinya. maff.go.jp/j/kokuyu_ rinya/sizen kankyo/ corridor.html

回廊プロジェクト)

https://www.bctj

ip/projects/green-

corridor/

同じころ、ボルネオ島にあるサバ州(マレーシア)の野生生物局の職員や研究者などの協力を 得て、2006年9月に「ボルネオ保全トラスト」を設立しました。同年10月にはNGOとして州 政府から認定を受けています。このボルネオ保全トラストを通して、さまざまな支援活動がはじ まりました。

〈図 2〉緑の回廊計画

また、ボルネオ島の熱帯雨林 とそこに住む野生動物たちを守 る活動としては、「緑の回廊計 画(図2)|を実行しています。 これは、野生動物にとって生存 の鍵となる川辺の土地を買い戻 し、分断されていた保護地をつ なぐことで野生動物保護のため の長い「廊下」のような土地を つくり、動物たちが自由に行き 来できる豊かな熱帯雨林を回復 するための計画です。2021年 には9箇所の「サラヤの森」が でき、ほかにも様々な企業が替 同して、保護のための土地は増 え続けています。

他にも、森の減少により人間 との間でトラブルが増えたボル

サラヤの森4号地 ナラヤの森3号出 ラヤの森1号地 = 保護林 □ 私有地・ブランテーション ++バタンガン!!! : 保護区・保護林 : 緑の回廊計画地区

ネオゾウが、畑を荒らされることを嫌う農民に銃で撃たれたり、捕獲用の罠を仕掛けられて子ゾ ウがけがをするなどの問題がありました。そこで現地の野生生物局とともに、傷ついた子ゾウの 救出や、水の苦手なオランウータンが川を渡るための吊り橋を日本の使用済み消防ホースで作る

など、動物の救出活動も行ってきました。2013 年には、「野生生物レスキューセンター」が設立 され、けがをしたボルネオゾウの治療や一時的 な保護を行っています。

活動にはたくさんの資金が必要です。そこで サラヤは、ヤシノミ洗剤やその関連商品の売上 げの「1%」をボルネオの環境保全活動に充て ることにしています。原料調達と製造過程にお いてできる限り環境に負荷をかけず、消費者と 生産者、自然環境に配慮し、さらにその製品を



レスキューセンターのボルネオゾウ

問いかけ サラヤ:緑の回廊プロジェクト

ボルネオ保全トラスト・ジャパン 緑の回廊プロジェクト



問いかけ 林野庁:緑の回廊



〈図3〉命のサイクル



使うことで森を守る手助けができる。これこそ がサラヤの目指す「命のサイクル (左図)」です。 「きれいごと」だと思われるかもしれませんが、 創業からビジネスと社会貢献を両立してきたサ ラヤでは、当たり前のこととしてとらえていま

※ 1:東南アジアにある大きな島で、インドネシア、マレーシア、 ブルネイの3カ国の領土がある。

4. 今後の課題 ボルネオと日本の距離を近くするために

日本人のパーム油の年間消費量は5キロ(※2)とも言われていますが、パーム油に関する問 題についてよく知らない人も多くいます。私たちはボルネオに恩返しをしなければいけないと考 えていますが、緑の回廊が完成するにはまだまだ多くの支援が必要です。もっとたくさんの人々 にボルネオ島の熱帯雨林の現状を知っていただき、行動に移してもらうにはどうすればよいか、

さまざまな方法で取り組んでいます。テレビ CM は行ってい ませんが、その代わりに WEB や SNS などを通じて、ボル ネオに関する様々な情報や活動の取り組みを紹介したり、商 品パッケージに環境保全活動の説明をするなど、多くの人の 目に留まるよう工夫をしています。

2021年にヤシノミ洗剤は発売50周年を迎え、さらに環境 に配慮した商品づくりを目指し、100%再生プラスチックを 使用したボトルの開発などにも挑戦しています。

「エシカル消費(※3)|という言葉が広がり、「買い物は 投票である(※4)」という考え方が今では多くの消費者に 広まる中で、もっとボルネオの環境問題を身近に考えられる ように、商品やプロモーションを通じて新しい情報を伝えな がら、サラヤではこれからもお客様とともに活動を続けてい きたいと考えています。

消費者に対し自然環境保護のメッセージを 伝えるためのパッケージ

※ 2: (出典) ボルネオ保全トラストジャパン 「パーム油と私たちのくらし」 https://www.bctj.jp/palm-oil-and-our-life/

※ 3: エシカルとは「倫理的な」という意味の英語。「倫理的消費」とも言われ、ある商品の製造・販売の過程で、例えば環境 破壊や労働者の人権の問題を起こしていないかなど、人・環境・社会に対して正しく公平な行動がとられているかを判 断して消費者が商品を買おうとする行動のこと。

※4:ある商品を買うということは、「それがいい」と考え選んでいる事であるため、そのことがあたかも選挙で立候補者を選 んで「投票」するのと似ているという考え方で、近年、商品を買うことも社会課題の解決に関係があるという意味で使 われている。





【企業の商品販売を 通じた社会課題解 決について深く考 える】

このような取り 組みにおいては、 消費者が買った商 品の金額の一部が 環境保全活動に充 てられることに よって、消費者も 間接的にその取り 組みに協力してい ることになる。他 方、「企業が商品を 売るために消費者 の善意を利用して いる」というよう な意見もある。

①あなたはこのよ うな企業の取り組 みについてどう思 うか? できれば、 良いと思う点と問 題だと思う点の両 方について考えた ことを挙げてみよ う。他の生徒とも 話し合ってみよう。

問い かけ発展

【前の問いの続き】

②問題だと思う点 について、あなた はどすれば良いと 思うか。自分なり に考えてみよう。 他の生徒とも話し 合ってみよう。



【社会課題を知って もらうために必要 なことを考える】

パーム油に関する 問題や熱帯雨林の現 状について、より 多くの人が理解し行 動に移すようになる ためには、サラヤが 行っていること以外 にどのようなことが 必要だろうか。自分 なりに考えたり、他 の生徒と話し合った りしてみよう。